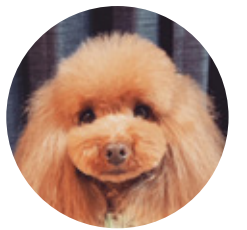




心配しすぎる、あなたが心配です。

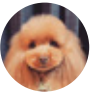


コロナ時代を生きる vol.2 新型コロナウイルスの感染拡大が続いている今、子どもの健康はどうやって守れば良いのでしょうか。今回は、東京都医師会（都医）にちなみトイプードルのトイクンが、東京都医師会 川上一恵理事（かずえキッズクリニック院長）にお話をうかがいました。

先生、今、子どもの予防接種や健康診断を受けさせていない保護者の方が多いって本当ですか？



先生、保護者の皆さんにメッセージはありますか？



はい、新型コロナウイルスの院内感染を恐れる方が多いからでしょう。でも、現在、病院や診療所は感染防止のために、予約制にしたり、入り口や診察室を分けたり、いろいろな工夫をしています。

そうなんですね。



もっと私たちを頼って！

それは、どういうことですか？

私たち小児科医は病気を診るだけではなく、子どもの健やかな育ちを支えています。例えば診察の最後に「他に何か気になることはありますか？」と聞いてみます。

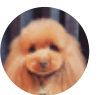
新型コロナウイルスは、子どもは感染しても発症しないか、発症しても軽症であるケースが比較的多いようです。むしろ予防接種を受けないことで他の感染症にかかることの方が怖いのです。

え！？そんなに危険なんですか？

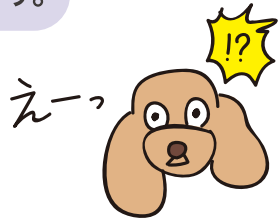


そこから「実は…」と語られることにとても重要なことが含まれていることがあるのです。患者である子どもだけではなく保護者の表情や子どもへ向ける眼差しも見ています。

なるほど！



乳児期に受けるヒブ、肺炎球菌、4種混合ワクチンによって守られる疾患は、乳児がかかると命に関わることがあるのです。



東京都医師会では都民の方々に、「かかりつけ医を持ちましょう」と言っていますが、子どもも、ぜひ、かかりつけの小児科医を持ってほしいです。

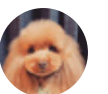
子ども、ですか？



そうすると保護者が育児で困っていることに対して医療、福祉、教育など子どもに関係するいろいろな分野と連携して解決の糸口を一緒に探すこともできます。

定期ワクチンって大切なんですね！

ホント、治療だけじゃないんですね！



これは？



うちのクリニックの壁に貼ってあります。



ええ、子どもの笑顔は親をハッピーにしますし、親にゆとりがあると、子どもは落ち着きます。育児に寄り添うこともかかりつけ医の役割だと思っています。

だから、感染を過剰に心配せず、予防接種や健診を受けるだけではなく、困ったことを気軽に相談しに来てほしいと思っています。

先生、ありがとうございました！



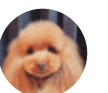
もちろん！お兄ちゃんでも。

泣いてもいいんですね。

よろしく
お願いします



あ…会長。



保護者の皆さん、もっと小児科医を頼ってください！



「今、小児科医が伝えたいこと」さらに詳しくインタビュー全文はこちら

都のため、人のため。



公益社団法人 東京都医師会